

【異物混入】ベビーフードに樹脂片混入し9万5000個自主回収



※写真はイメージです。

ベビーフード「栄養マルシェ」の一部商品に樹脂片が混入していたとして、出荷した約9万5000個を自主回収すると発表した。現時点で健康被害は報告されていない。

対象は「栄養マルシェ」シリーズで主食とおかずがセットになっている「鮭のまぜごはんランチ」「牛肉おこわランチ」「田舎風弁当」と詰め合わせの商品の一部。これらに入っている「牛肉とほっくりじゃがいもの煮物」の賞味期限が「2025. 6/C3」と記載されている製品に混入した可能性があるという。

消費者からの問い合わせで発覚。製造時に使用する樹脂製部品の長さ約15ミリ、幅5ミリの破片が混入していた。全国のスーパーやドラッグストアで販売された。（引用転載：産経新聞オンライン 2024/5/20 21:00 より）

適正な異物検査と検出機対応の道具の活用で出荷前発見の確率を上げましょう

上記の記事は、2024年5月に発生した異物混入事故です。混入していた異物は、製造ラインで使用している樹脂製の部品の一部でした。幸い、子どもが口にする前に気が付き、健康被害等の続報はありません。商品は岡山県の工場生産され、全国のドラッグストア、スーパーで販売されており、直ちに、自主回収となりました。今回はこの異物混入事故から、食品工場内で使用する道具の異物混入対策を検討しました。

原因の推測

問題となった事象	原因を考えるポイント
商品への樹脂製部品の混入	① 機械器具の破損や消耗の状態は定期的な点検がされていたか？記録はあるか？
	② 金属検出機、X線検査機による異物検査は適正に実施されていたか？
	③ 食品に直接触れる機器や道具は検査機にどの程度反応するかを把握していたか？

対策案

異物検知する機器は、混入した異物をすべて排除できるわけではありません。検査機器を通過する時の角度や形状によって、異物を検知することができない場合もあります。異物が混入したまま出荷するリスクを低減するには、作業前後の機械器具や道具の点検や作業後の清掃により、異常を確認することも重要なポイントです。いろいろな方法や手段を組合わせて、出荷前に異物混入した製品を特定し排除することができます。

▼ 異物混入した商品を出荷前に排除するポイント

POINT 1：食品に直接触れる道具は**金属検査機またはX線検査機に反応する物**を選択する。

POINT 2：整理・整頓して、**現場にある器具や用具などを作業事に確認し管理する**。

提案する清掃用具

バーキンタ X/バーキンタシリーズ



選択する理由

- ・ブラシや樹脂部分は、**検査器が反応する素材を使用しているため、混入時にも検査器が反応する可能性が高く**、異物を発見できます。
- ・樹脂製品は5色展開しており、目視でも発見しやすいカラーの選択ができ、工場内のゾーニングにも合わせた活用ができます。
- ・ブラシ素材と同じ**テストピースを無料**で提供しているので、製造現場の**検出器の反応を事前にテスト**することができます。

㈱バーテックでは、このような事故の予防のため、食品製造業向けのブラシの提案だけでなく、現場の作業員から普段の清掃作業で求められている結果を得られているかなどを聞き取り、清掃マニュアルをはじめとする食品製造現場の衛生管理レベルの向上をお手伝いしています。まずは、**弊社営業担当者、またはメールアドレス（is@burrtec.co.jp）**までご相談ください。